

神戸町子どもの読書活動推進計画
『～あけてみよう！未来へ続く夢のとびら～』

平成27年
神戸町教育委員会

はじめに

どんなに素晴らしい考えや思いがあっても、言葉にして残しておかないとすべて消えてしまいます。あと百年も経てば、今生きている人間も次の世代へ入れ替わっていることでしょう。

科学や技術がどれほど進んでも、人間の心や感情は一代限り、その人だけのものです。次の世代へ引き継いでいくことができません。時代を経たからといって、人間の心は、生まれたときから進化を遂げているわけではないのです。

私たちが味わう感情は、決して人類の中で初めてのものではなく、かつて生きてきた人たちと同じなのです。

そのような言葉の蓄積である書物は、古今東西のさまざまな人々の思いの蓄積でもあります。読書を通して、その思いに触れることは、自分を見つめる機会になります。

神戸町の子どもたちが 読書から知識を得るだけでなく、それらを経験し実践することを通して、自分自身の智恵へと変え、今という瞬間を大切に、日々逞しく生きて欲しいと思います。

目次

はじめに

子どもの読書活動推進計画策定にあたって

1. 策定の趣旨	1
2. 基本方針	2
2-1 子どもの読書環境の整備	
2-2 子どもの読書推進のための体制の整備・各機関との連携	
2-3 読書活動の意義の普及	
3. 各機関における「子ども読書活動」の推進	4
3-1 家庭・地域における「子ども読書活動」	
3-2 幼児園における「子ども読書活動」	
3-3 小中学校における「子ども読書活動」	
3-4 町立図書館・子育て支援センターにおける「子ども読書活動」	
4. 「子ども読書活動推進」への連携事業	12
おわりに	

子どもの読書活動推進計画策定にあたって

1. 策定の趣旨

今日、わが国は少子高齢化・情報化や多様な国際化などの大きな変革期を迎えています。また、子どもたちにも、大きな環境の変化が起こっています。そのような中で、子どもたち一人ひとりが自分らしく豊かに生きるために、読書を通じて言葉や表現を学び、創造力を育むことが必要不可欠です。

国においても、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成13年12月に公布・施行され、県においても「岐阜県子どもの読書活動推進計画」が平成16年3月に策定されました。さらに、平成22年に「岐阜県子どもの読書活動推進計画 第二次」が策定、その後の計画の成果と課題を踏まえ、平成27年に「岐阜県子どもの読書活動推進計画 第三次」が策定されました。

本町においても「神戸町社会教育計画」で、子どもの可能性を伸ばす教育の充実や社会の変化に対応できる能力を育成するため、学校・家庭・地域が連携した取り組みが必要なことが述べられています。

「神戸町子どもの読書活動推進計画」(以下「子どもの読書推進計画」という)は、子どもたちが本を身近に感じ、ふれあえる環境づくりを行う指

針として、各機関のそれぞれの現状・課題をみつめ、より良い読書環境の整備をめざすものです。なお「子ども」とは、概ね18才以下のものとし、この計画にあたっては、5年をめどに見直しを行います。

2. 基本方針

2-1. 子どもの読書環境の整備

- ・子どもたちは「読み聞かせ」を聞くことや、自分で本を読むことを通して、心の中で、さまざまな経験をすることができます。そこから学び、生まれた考えを自分自身のものとして表現できるようにするため、読書環境の整備に努めます。
- ・子ども一人ひとりの年齢や発達段階に応じた内容の本に出会える環境をめざします。そのため、町立図書館や学校図書館の資料を分かりやすく利用できるように内容の充実を図ります。
- ・本との出会いの場が整うことにより、子どもたちが家庭・学校・図書館等で、より良い読書の習慣を身に付けられるように努めます。

2-2. 子どもの読書推進のための体制の整備・各機関との連携

子どもの読書活動の推進には、子どもの意欲や読書ができる環境の整備だけでなく、子どもを取り巻くサポートが必要になります。そのため、子どもの読書活動に関わる行政や学校が連携し、民間ボランティアとの協力や情報提供などを積極的に行います。

2-3. 読書活動の意義の普及

子どもは、読み聞かせや大人が読書をする様子を見て、本を身近に感じ、読書への興味・関心・意欲をもつようになります。子どもが読書習慣を身に付けるには、大人も読書に理解と関心をもつことが必要です。幅広い世代が読書に親しめる体制の整備を行い、社会全体へ読書活動の大切さを伝えることに努めます。

3. 各機関における「子ども読書活動」の推進

3-1 家庭・地域における「子ども読書活動」

『現状と課題』

子どもを育む最も大切な場所は「家庭」です。また、家族だけでなく、地域の人々とのつながりのなかでも、人との関わり方や自分の役割を学んで行きます。近年は、家庭やそれを取り巻く状況が変わり、地域の人々との付き合いも希薄になりつつあります。

子どもの読書習慣は、日常の生活を通して作られます。家庭の状況により、本に接する機会の多い子どもと少ない子どもでは、その後の読書の進み具合で、差が生じています。

また、情報を得る方法も増えて、選択ができるようになり、読書以外の楽しみが親子とも多くなりました。子どもの年齢が上がるにつれ、勉強や習い事、スポーツなどに、時間を割く必要に迫られ、ゆっくりと本に親しむ余裕も少なくなってきました。

『読書活動推進への取り組み』

- ・家庭・地域においても、大人と子どもと一緒に読書を楽しむことが重要です。
- ・家庭の日に読書の時間を設けることをすすめます。
- ・乳幼児には、絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、周りの大人からの愛情を感じる事が大切です。親子のふれあいの場として、町立図書館や子育て支援センターの乳幼児向けコーナーの充実を図り、また、読み聞かせのボランティアの奨励や育成に努め、子育てに役立つ資料収集を行います。
- ・小中学生には、学校からのおすすめの本だけでなく、自分の興味のある分野の本を積極的に読むことが大事な時期です。情報をインターネットだけでなく、本のページをめくることによって、自分の知りたいことに関する周辺の情報も吸収できます。学校図書館や町立図書館では、子どもの興味に沿った図書や資料をそろえ、利用しやすく整備します。

3-2 幼稚園における「子ども読書活動」

『現状と課題』

幼稚園児にとって、絵本や紙芝居は、登場人物の心情を追体験するだけでなく、年中行事等の季節感を味わいながら、言葉を覚えたり生活習慣を学ぶ大切な機会となります。

園では、給食後や午睡(昼寝)の前、帰りの会等で年齢にあった内容の絵本の読み聞かせを行っています。保護者会等においても、当番制で『読み聞かせの会』を運営し、読み聞かせを行っています。

また、自由遊びの時間、幼稚園児が自分で保育室内の絵本を見ることができるようになっています。

園からの絵本の貸出を通じて、家庭でも、ゆったりと絵本に親しむ機会を提供しています。

課題としては、家庭で本に接する機会が少なく、興味をもてない子どもたちにも本の面白さを知らせることが重要となります。

また、園から家庭へ向けて、読み聞かせの大切さや絵本の選び方を伝える必要があります。

『読書活動推進への取り組み』

- ・図書室(図書コーナー)を活用して、子どもたちの心に響く絵本の選択や読み聞かせができるように努めます。
- ・読み聞かせを通して、子どもたち一人ひとりが本の世界に親しみ、楽しめるようにします。また、家庭でも読書ができるように、絵本の貸出をする機会を増やします。
- ・各保育室の図書コーナーを見直し、季節や子どもたちの状況に合わせて、本の並べ方の工夫やゆったりと絵本が見られる場所の確保に努めます。
- ・園から家庭への「おたより」などを通じて、保護者へ読み聞かせの大切さを伝え、読書をすすめます。
- ・園にて本の借り方や見方、マナーを学び、町立図書館等を利用する機会を設けるように努めます。

3-3小中学校における「子ども読書活動」

『現状と課題』

小学校では、読書に親しむため、ボランティアやPTAなどが定期的に読み聞かせ等を行っています。地域と協力して、読書推進に努めています。

また、小中各校において「朝の読書」の時間を設けています。それぞれ学年ごとに推薦図書を選定し、学級文庫として教室で自由に読めるようにしています。

良質の作品に触れるだけでなく、問題解決や調べ学習、将来の自分に向けて世界を広げるための読書が必要です。そのため、小中学校では、次のように各学年の発達段階に沿った読書指導を行っています。

小学校低学年…読書を楽しむ

小学校中学年…いろいろな分野を読む

小学校高学年…目的に応じた本を読む

中学校…読書を生活に役立てる

課題としては、本を読む子どもたちと読まない子どもたちの差が大きく、学校図書館の利用者が固定化されていること、また、その中でも読む本の分野に偏りが見られることが挙げられます。

『読書活動推進への取り組み』

- ・小中学校においては、「図書館利用指導年間計画」により、各校の取り組みが進められています。
 - ・小学校では、「親子読書」の導入や児童の図書委員会を中心に「図書館まつり」を工夫して行うことで、子どもたちがより良い本に親しむ機会を作ります。
 - ・中学校では、子どもたちが自主的に活動できる体制を作ります。
 - ・学校図書館を学習・情報・読書センターとして整備し、図書館を使う学習を日常の中に取り入れる機会を増やします。
- 図書資料は、多様なニーズに対応し、知的な刺激を与えるものを収集します。
- ・町立図書館からの本の出張サービスや団体貸出を通じて、学習の充実に努めます。

3-4 町立図書館・子育て支援センターにおける「子ども読書活動」

『現状と課題』

町立図書館では、子どもたちの年齢に応じた多様な種類の資料（本・紙芝居・パネルシアター・大型絵本など）の収集・貸出・情報提供に努めています。具体的に以下のような情報提供があります。

・パスファインダー

特定のテーマに対しての資料の探し方・調べ方を紹介するもの

・ブックリスト

子どもの発達段階や興味に沿ったおすすめ本の一覧

子どもたちと家族、それに係る地域の方々、ボランティア、幼稚園・学校へのサービスを行い、季節の館内展示・イベントを通して、本や図書館に親しむきっかけ作りをしています。また、他の機関からの情報を発信する拠点としての役割も担います。

子育て支援センターでは、ブックスタート事業を始め、ボランティアによる読み聞かせが行われています。

町立図書館・子育て支援センター双方とも、乳幼児期から、子どもたちが本とふれあい、楽しむための工夫をしています。

課題としては、各施設の実際の利用者が限られているので、今後は、

新規の利用者増ならびに、今までの利用者に対しても、施設への来館頻度を増やしてもらえる魅力ある施設づくりが必要です。

『読書活動推進への取り組み』

- ・子育て支援センターでは、ブックスタート事業や読み聞かせを通して、穏やかなひと時を過ごせる環境づくりを行います。また、各機関の協力を得て、ブックスタート絵本の受取率を高めるように努めます。
- ・町立図書館では、読み聞かせができる「おはなしのへや」や乳幼児向けの「赤ちゃん絵本コーナー」「子育て支援の本コーナー」を設置し、家族で楽しめる場を提供していきます。また、読み聞かせのボランティアの募集・育成に力を注ぎます。
- ・郷土資料や調べ学習に対応できる本の収集に努めます。県図書館や近隣図書館と協力して、求めに応じられる図書館づくりを目指します。
- ・本や図書館に興味をもてるように、広報活動やイベントを行い、図書館訪問や職場体験の受け入れを行います。
- ・幼稚園や小中学校・子育て支援センターと連携して、子どもたちにとって、より良い読書環境を提供できるように努めます。
- ・学校訪問では、町立図書館が各学校に出向き、本の貸出の出張サー

ビスを行います。今後も、各学校のニーズをくみ取り、喜ばれる本を持参できるように努めます。

- ・団体貸出では、学校からの調べ物に対応し、テーマに合った本の貸出を行います。子どもたち一人ひとりに本が行き渡るように、学習に沿った内容の本を収集できるようにします。

- ・障がい者サービスとして、点字図書(絵本等)の収集や他館との協力体制のもと、録音資料の提供などのサービスに努めます。

4. 「子ども読書活動推進」への連携事業

子どもの読書を深めていく上で、子どもを取り巻く各機関(家庭・地域・幼稚園・小中学校・子育て支援センター・町立図書館)が協力して活動することが大切です。

・ブックスタート事業

子育て支援センターと町立図書館と地域のボランティアでの連携により行われています。各機関からの協力体制のもと、円滑な運営に努めます。

・学校訪問

町立図書館が学校へ訪問し、移動図書館を開き、図書館の本に親しめるようにします。今後も、各学校や学年の傾向をくみ取り、子どもたちの読書への興味を高められるように努めます。利用する子どもたちが増えるように、学校と協力して、事前の広報活動を行います。

・団体貸出

あらかじめ、町立図書館において貸出処理を行った本を持参し、一定期間、学校への貸出を行います。貸出期間中、学校に常に置いてあるので、ゆっくりと本を手にとることができます。町立図書館から遠方の学校や調べ学習などのテーマが決まったものへの利用が多く、それぞれの要望へ対応が求められます。特に調べ学習においては、テーマの比較検討ができるように、複数の観点から見た多様な内容の本の収集に努めます。

・図書館での行事(ぱたぽん・えほんのひろば等)

町の広報やホームページ、子育て支援センター、幼稚園・学校等への案内を通じて、地域のボランティアの協力のもと、読み聞かせや

手遊び・歌遊び・おりがみなどを充実させていきます。

・幼児園や学校の読み聞かせへの協力

幼児園や学校職員からの貸出要請だけでなく、携わる保護者や、近隣のボランティアへも、読み聞かせに適した資料の案内、貸出を行っていきます。

・リサイクル本の提供

子育て支援センターなどへ優先的に、児童書や子育て関連雑誌のリサイクル本の提供を行い、図書資料の有効活用を図ります。

・学校と町立図書館の連携

司書間等の情報交換を通じて、小・中学校での読書活動の様子や傾向を把握し、学校図書館・町立図書館のそれぞれの業務へ生かせるように努めます。

おわりに

変化し続ける世の中で、子どもたち一人ひとりが生きる力を育むために、読書体験は必須のものです。自分一人では、到底経験できないような多くの出来事を本から得ることができます。子どもたちがこの大切な時期に、できるだけ多くの本に親しみ、生きる基盤を築くことが大切です。各機関での取り組みや連携事業等を通じて、神戸町の子どもたちが何処にいても読書を楽しめる環境づくりを目指します。